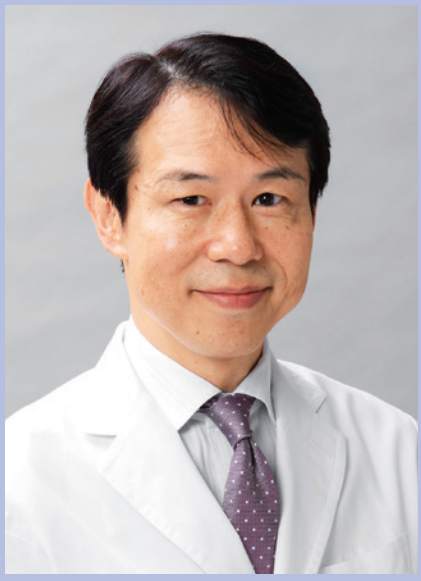
9 総合診療科
General Medicine

●教室（診療科）の特色●

総合診療科の初診患者の多くは発熱、痛みなどを主訴とする診断のついていない状態です。全ての患者さんは、最初は未診断であり、診断のプロセスを他の病院や診療所に依存している状況が多いのが大学病院です。ではどこにこのような患者を診断していくための臨床推論を学ぶ場があるかというと、そのために最適なフィールドが総合診療科であり、大学病院で行いにくいプライマリケア実践の場です。

外来のみならず未診断の患者の入院精査、加療を行う中で総合診療医の育成を行います。



鈴木 富雄（すずき とみお）総合診療科特任教授（科長）

■専門分野
総合診療、医学教育

■職歴
平成　3年　名古屋大学医学部卒業
平成　3年　市立舞鶴市民病院内科勤務
平成12年　市立舞鶴市民病院内科医長
平成12年　名古屋大学医学部附属病院総合診療部医員
平成13年　名古屋大学医学部附属病院総合診療部助手（病棟医長）
平成18年　名古屋大学医学部附属病院総合診療部講師
（平成22年より総合診療科に変更）
平成26年　大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座特任教授（現 大阪医科薬科大学）

■主な学会／専門医資格
日本医学教育学会／総合診療専門医／日本内科学会／日本老年医学会／日本感染症学会／日本質的心理学会
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医／日本医学教育学会認定医学教育専門家

■研究課題
患者中心のコミュニケーション教育に関する質的研究
医師のプロフェッショナリズム教育に関する質的研究
地域における総合診療医育成に関する研究

●教室（診療科）の概要・特徴●

総合診療科の初診患者の多くは発熱、痛みなどを主訴とする診断のついていない状態です。全ての患者さんは、最初は未診断であり、診断のプロセスを他の病院や診療所に依存している状況が多いのが大学病院です。ではどこにこのような患者を診断していくための臨床推論を学ぶ場があるかというと、そのために最適なフィールドが総合診療科であり、大学病院で行いにくいプライマリ・ケア実践の場です。

外来のみならず未診断の患者の入院精査、加療を行う中で総合診療医の育成を行います。

大学病院の総合診療科は、診断が困難、あるいは稀な疾患の患者が集まる傾向にあり、入院患者総数における学会での症例報告の率は高いレベルにあります。また国は総合診療医育成の推進を表明しており、今後総合診療科での研修が極めて重要になっています。私達は大学病院において総合診療科としてすべての領域を広く診る以外に、専門領域の高い能力も有する医師の集まりと自負しています。研究面は各医師の専門領域の臨床、基礎的研究のみならず、感染制御学、あるいは感染サーベイランス領域の研究も行っています。

●教室（診療科）指導医・上級医●

氏 名（職 掌）	専 門 医	参加学会
浮村　聡（教授・感染対策室室長）	総合内科専門医、循環器専門医、感染症専門医	日本内科学会、日本循環器学会、日本感染症学会 日本化学療法学会、日本病院総合診療学会
三澤美和（助　教）	総合内科専門医、糖尿病専門医、家庭医療専門医	日本プライマリ・ケア連合学会、日本内科学会 日本糖尿病学会、日本医学教育学会
島田史生（助　教）	総合内科専門医、総合診療専門医、神経内科専門医	日本プライマリ・ケア連合学会、日本内科学会 日本神経学会、日本病院総合診療学会
橋本忠幸（助　教）	総合内科専門医、救急科専門医	日本内科学会、日本プライマリ・ケア連合学会 日本救急医学会、日本医学教育学会

■連　絡　先：大阪医科薬科大学総合診療科　TEL：072-683-1221（代表）／e-mail：gmd@ompu.ac.jp
■ホームページ：https://www.gm-osaka-med.jp/

初期研修プログラムの特徴

基本的な医療面接や身体診察のスキルをマスターし、診断のついていない患者を診断する臨床推論をマスターするために最適のフィールドです。また感染症、総合診療などの専門医資格取得のための基礎を作ることができます。大学病院ならではの貴重な症例も多く、初期研修医の間にプライマリ・ケア連合学会、内科学会などでの学会発表の経験を積むこともできます。

研修内容と到達目標

＜1年目＞

初期研修医として基本的な医療面接、理学的所見の取り方、動静脈血採血、血液培養などの基本的な手技を取得する。外来初診患者の診察を多数行い、詳細なカルテを記載し、診断のための鑑別診断をあげ、必要な検査のアセスメント、計画立案が行えるように実践的経験を積む。

＜2年目＞

外来初診患者の診療を指導医とともに行う。入院患者診療において担当医としてカルテを記載し、診断のための鑑別診断をあげ、必要な検査のアセスメント、計画立案が行えるように実践的経験を積む。これまでに経験した症例の中から症例発表を学会、勉強会などで実際に経験する。

評価方法

実臨床およびカンファレンスや学会発表における観察評価にて評価する。

毎日夕方に、その日の実施経験や学びを診療科長とともに振り返り、評価につなげる。

週間スケジュール

	午　前	午　後	その他
月曜日	病棟・外来診療	病棟診療・入院カンファレンス	
火曜日	病棟・外来診療	病棟診療・科長回診	抄読会・研修医レクチャー、ポートフォリオを用いた振り返り
水曜日	病棟・外来診療	病棟診療	各種勉強会
木曜日	病棟・外来診療	病棟診療・外来カンファレンス	医局会、漢方レクチャー（月に一度）
金曜日	病棟・外来診療	病棟診療・科長回診	リサーチミーティング（月に一度）

後期研修プログラムの特徴

総合診療の研修として、レジデントとして指導医の指導のもと外来診療を行います。また入院患者の診療においては診療計画立案を一人で行えるよう指導していきます。また4年目以降は救急、小児科などの研修を学内外で行い、総合診療専門医の資格取得を念頭においた研修を行います。

研修プログラム

＜3年目～4年目における研修方法＞

新専門医制度の目玉でもある総合診療専門医の育成を第一の目的とする。そのために総合診療科の外来及び入院診療のみならず、学内外の小児科、救急医療部、各内科専門科、院外の研修病院群を含めたネットワークの中で、実践的研修を行う。

研修内容と到達目標

総合診療医として必要とされる入院診療や外来診療を担える幅広い診療能力、病院の中央部門（安全管理・感染対策・医療連携など）におけるチーム・マネジメント能力、教育者としての役割、臨床研究への参加について、それぞれ高いレベルで行えることが後期研修の目標である。

プログラムに参加する医療機関等

新しい診療科であり、新専門医制度の総合診療専門医育成のため大阪医科薬科大学の各種研修プログラムを利用して、大阪医薬大の他の診療科、近隣の大学ならびに他の関連病院と提携し後期研修を行う。また診療所も研修の場と考える。　※次ページ参照

取得できる認定医・専門医

総合診療専門医、家庭医療専門医、病院総合診療専門医

参加学会等

日本内科学会／日本感染症学会／日本プライマリ・ケア連合学会
日本病院総合医学会／日本化学療法学会／日本環境感染学会

医局員の声

住友 嗣之

2016年度に入局しました、住友嗣之です。

大学院3年生として研究に取り組みながら、大学教員として臨床にも携わっています。研究テーマである副腎不全の診断実態の解明は、診療科を越えた先生方のご指導を賜りながら試行錯誤を重ね、徐々に形にしていっている状況です。

臨床に従事する時間と研究に取り組む時間が明確に分けられているため、臨床能力を落とすことなく、安心して研究にも専念できます。

個人のニーズに沿った研修、研究が実現できると思います。ぜひお気軽に遊びに来て下さい。

重留 一貴

2018年4月より入局しました重留一貴です。

初期研修は市中病院でcommon diseasesを滝のように浴びました。後期では量はもちろん大学ならではの「珍しい疾患」を診たいと思い入局しました。案の定、入局してすぐに自分の受け持ちの患者さんの疾患が、「誤嚥性肺炎」から「地中海熱」に変わりました。初期のころには考えもしなかった疾患が次々と診断されていくさまを見て感動しています。どんな人も「知らない病気」は診断できません。そしてここには鈴木先生を筆頭に「知っている人」が揃っています。是非、医者人生の始めを一緒に勉強しましょう。

川口 洋平

2019年4月入局の川口洋平です。

総合診療科には様々な目標を持った方がいます。診断学を突き詰めたい人、家庭医療や僻地医療に尽力したい人、小児や膠原病を重点的に診たい人など様々です。私自身将来的には緩和ケアの分野に進みたいとも考えています。このようにライフスタイルや自分の興味に合わせて進路を選択することが出来るのも総合診療の魅力の一つだと思います。大阪医科薬科大学にはそのためのサポートも充実していると思います。人を診る、治すだけではなく、医師としての人生も一緒に考えていきましょう。お待ちしています。

水谷　肇

2020年4月入局の水谷肇です！

もともと不動産屋で地上げをしていたという異色な経歴の僕を優しく包んでくれるこの医局。この包容力は患者さんに対しても如何なく発揮されています。原因不明の腹痛を訴えるひと、今まで一人暮らしだったけれど病気が進行してそれが難しくなったひと、学校に行けないひと。いろんな思いを抱えた人が総合診療科を訪れます。その一人一人の身体的、心理的、社会的な問題を解きほぐして筋道を作るのが僕たちの仕事です。最近鈴木教授の言う「あなたの専門医」の意味がわかりはじめてきました。いっしょに「患者さん」の勉強をしませんか？

礒田　翔

2021年4月入局しました礒田翔です。

診断力を向上させるため日々修行しています。世の中には専門科でも難しい不明○○（熱、腹痛、しびれ など）が溢れています。

体系だった思考プロセスとそれに基づく情報収集と分析があるからこそ、そういった不明○○に対応できると思います。診断が中々つかず病気が進行し、患者さんも自身も苦しいこともあります。でも諦めず真摯に向き合うことで、診断がつき治療に結びつき救われる命も多くありやりがいを感じます。

また、診断や治療という医学的側面だけでなく患者さんの思いなどの心理的側面、ご家族や周囲の環境といった社会的側面にも焦点を当ててカンファレンスでディスカッションするところも一つの特徴だと思います。皆優しく懐が深く居心地が良い医局で診断学を学び、考える楽しさ･診断し治療に結びつける喜びを一緒に味わいませんか？

専門研修医募集

新専門医制度に対応した、総合診療専門医養成のためのプログラムがあります。

＜研修プログラム3つの特徴＞

1. 病歴と身体診察を基本とし、患者の思いに応えられる本物の総合診療能力を獲得。
2. 院内から全国に広がる濃密なネットワークを駆使し、多彩なキャリアパスを支援。
3. プロフェッショナルとしての生涯に渡る成長と学びの方略を確立。

＜研修プログラムの一例＞

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目	**必須内科** 大阪医薬大●●内科			**必須内科** 大阪医薬大●●内科			**必須内科** 洛和会丸太町病院					
2年目	**総合診療専門Ⅱ** 大阪医薬大総合診療科						**必須救急科** 大阪医薬大 救命救急センター			**必須小児科** 洛和会音羽病院		
3年目	**総合診療専門Ⅱ** 大阪医薬大総合診療科						**総合診療専門Ⅰ** 本山町立国保嶺北中央病院					

総合診療Ⅰ 密接に関連した診療所もしくは小病院でCommonな症例を豊富に経験	松本ほがらかクリニック、公立神崎総合病院、 本山町立国保嶺北中央病院、 川村会くぼかわ病院、 米原市地域包括医療福祉センター、大井田病院
総合診療Ⅱ 研修の中心となる大学病院総合診療科でジェネラリストとしての根幹を確立	大阪医科薬科大学総合診療科 市立奈良病院、沖縄県立北部病院
必須内科 大学病院専門内科での充実した指導体制下で豊富な症例を研鑽	大阪医科薬科大学専門内科各科、天の川病院、 洛和会丸太町病院、公立神崎総合病院、 市立ひらかた病院、高槻赤十字病院 川村会くぼかわ病院、金井病院、大井田病院
必須救急科 一次から三次まであらゆる症例に対応できる救急診療能力を育成	大阪医科薬科大学救命救急センター、 市立ひらかた病院、市立奈良病院、 高槻赤十字病院
必須小児科 外来から入院症例まで多彩な症例を経験	大阪医科薬科大学小児科、洛和会音羽病院、 市立ひらかた病院、市立奈良病院、 公立神崎総合病院、高槻赤十字病院、高槻病院
領域別研修 レジデントの希望に応じて柔軟な選択が可能	大阪医科薬科大学専門各科、 かとう内科並木通り診療所、 しもむら内科クリニック

大学院における研究活動

総合診療科は日常の診療の中で生じた疑問を疑問のままにとどめず医学という科学に昇華し、その疑問を解明していくために用いる優れたフィールドの一つです。また医学教育という新しい研究分野のフィールドとしても価値があります。これらの疑問を論理的に解き明かしていくのがまさに医学研究といえます。それぞれの興味のある分野について、上級医の指導の下、論文作成を行います。

- ⓐコミュニティ(都市部や漁村など)の違いによるACSの発症頻度に関する研究
- ⓑ副腎不全疑い症例に対する総合診療科での診療に関する研究
- ⓒ地域における地域医療実習の受け入れ側の意義に関する探索研究
- ⓓプライマリ・ケアセッティングでの認知症の治療とケアに関する研究
- ⓔ総合診療科での外来診療教育に関する研究
- ⓕプライマリ・ケアの現場でACP施行時の医療従事者への影響に関する探索研究

研究実績（2022年度論文業績）

【論文】

1) Takayama M, Misawa M, Shimada F, Suzuki T. iLudwig's angina and mask use. Journal of General and Family Medicine. 2023. doi:10.1002/jgf2.610.
2) 橋本忠幸, 小杉俊介, 金澤剛志, 徳増一樹, 木戸敏喜. ピア・ラーニングの力を発揮する-同世代の医師によるオンラインジャーナルクラブ共同構築・運営の試み-. 2022;53(2):157-162. ISSN:0386-9644.
3) 北島正大, 青木達也, 内田真人, 名村隆, 奥田昌子, 橋本忠幸. 地域中核病院における多職種ポリファーマシー対策チームの4年間の活動報告.2022;45(4):132-135. doi:10.14442/generalist.45.132
4) 橋本忠幸, 小杉俊介, 菊川 誠. 専門研修プログラム整備基準に記述された専攻医の指導的役割に関する横断研究. 医学教育2022;53(1):71-75. ISSN:0386-9644.
5) Iwamoto M, Ukimura A, Ogawa T, Kawanishi F, Osaka N, Kubota M, Mori T, Sawamura R, Nishihara M, Suzuki T, Uchiyama K. Association between history of HBV vaccine response and anti-SARS-CoV-2 spike antibody response to the BioNTech/Pfizer's BNT162b2 mRNA SARS-CoV-2 vaccine among healthcare workers in Japan: A prospective observational study. PLoS One. 2022 May 16;17(5):e0268529. doi: 10.1371/journal.pone.0268529. PMID: 35576209; PMCID: PMC9109930.
6) Minami K, Yamada T, Yoshioka K, Kawanishi F, Ogawa T, Ukimura A. Effect of the introduction of a management bundle for blood culture collection. Am J Infect Control. 2022 Jul;50(7):772-776. doi: 10.1016/j.ajic.2021.11.019. Epub 2021 Dec 2. PMID: 34863897.
7) Yamasaki E, Shimamoto F, Nishikawa H, Goto M, Iwamoto M, Kimura K, Ukimura A, Oosaka N, Taniguchi K, Ono F, Terazawa T, Yamaguchi T, Asaishi K, Ikegami T, Uchiyama K, Nakamura S, Higuchi K. A Prospective Study Regarding the Efficacy and Safety of the BNT162b2 Vaccine in Patients With Solid Malignancies Undergoing Systemic Chemotherapy. In Vivo. 2022 Nov-Dec;36(6):2780-2789. doi: 10.21873/invivo.13015. PMID: 36309395; PMCID: PMC9677789.
8) Kusaka Y, Ogawa T, Yamada T, Minami K, Umegaki O, Ukimura A. Young Healthy Patient With Severe COVID-19 and Fulminant Community-Acquired Pseudomonas aeruginosa Pneumonia: A Case Report. Cureus. 2022 Dec 16;14(12):e32617. doi: 10.7759/cureus.32617. PMID: 36654604; PMCID: PMC9841129.
9) Yamada T, Minami K, Oda K, Suzuki K, Nishihara M, Uchiyama K, Ukimura A. Probability of target attainment of oral antimicrobials for Escherichia coli and Klebsiella pneumoniae based on Monte Carlo simulations. Diagn Microbiol Infect Dis. 2022 May;103(1):115662. doi: 10.1016/j.diagmicrobio.2022.115662. Epub 2022 Feb 25. PMID: 35321800.
10) Ogawa T, Yamada T, Matsumoto Y, Minami K, Kawanishi F, Nakano T, Ukimura A. Adverse events after administration of the first and second doses of messenger RNA-based COVID-19 vaccines in Japanese subjects aged 12-18 years. J Int Med Res. 2022 Oct;50(10):30006052211275 18. doi: 10.1177/03000605221127518. PMID: 36217268; PMCID: PMC9558881.

【その他】

1) 眼底・耳の診察. 鈴木富雄. レジデントノート 24 (1), 77-87, 2022.
2) チーフレジデント直伝!デキる指導医になる70の方法：研修医教育：マネジメント・リーダーシップ：評価法の極意. 野木真将,橋本忠幸,松尾貴公,岡本武士.医学書院. 2022.5.
3) 【日常診療に潜む臨床検査のピットフォールを回避せよ】(岩岡秀明編著)座談会 臨床検査でのエラーを回避するために. Case 15. ANCA陽性！ それって本当に血管炎？三澤美和. medicina. 2022.7.
4) 【2ページで診療が変わる!糖尿病・内分泌疾患 ナレッジ100】8インスリンを嫌がる患者の説得方法,21何剤からインスリン導入を考えるか, 22ポリファーマシー, 33妊婦の管理, 55フットケア, 56他科紹介. 三澤美和. 南山堂. 2022.10.
5) HPVワクチン接種後の機能性身体症状への対応. 鈴木富雄. 日本医事新報5136, 18-30, 2022.
6) もう騙されない！外来に現れるミミック疾患 顔面から前胸部の水疱性皮疹. 鈴木富雄. 日本医事新報5139, 10-11, 2022.
7) 【レクチャーの達人-とっておきの生ライブ付き!】(第II章)My Bestレクチャー講義録「7人の"My Bestレクチャー"15分1本勝負!」みんなに知っておいてほしい介護保険の話. 橋本忠幸.総合診療.2022.12;32(12)1490-1493.
8) プライマリ・ケア医の予防接種実施状況と接種推奨度およびワクチンに関する知識と情報源に関する全国調査. 坂西雄太, 武内治郎, 千葉大, 西岡洋右, 来住知美, 町野亜古, 菅長麗依, 中山久仁子, 岡田唯男, 鈴木富雄. 日本プライマリ・ケア連合学会誌45(2), 49-58, 2022.
9) 6年前の提言から. 鈴木富雄. 日本プライマリ・ケア連合学会誌46(1),1, 2023.
10) 【研修医の学び方 限りある時間と機会をうまく活かすためのノウハウ】実臨床で効率よく・濃く学ぶ 患者・家族との接し方を実臨床で学ぶ. 田中幸介, 橋本忠幸.レジデントノート.2023.2;24(16)2774-2781.
11) 【研修医の学び方 限りある時間と機会をうまく活かすためのノウハウ】Off the Jobで学びを補う 教える側になる. 岡部友香, 橋本忠幸. レジデントノート.2023.2;24(16)2807-2815.
12) 救急・病棟でデキる！糖尿病の診かたと血糖コントロール～緊急時対応から患者教育まで、帰宅後も見据えた血糖管理のコツを教えます. 三澤美和.レジデントノート.2023.3;24(18).編集.
13) だけでいい！ フィジカルアセスメント: 外来でも病棟でもこの1冊. 橋本忠幸.メディカ出版.2023.3.